

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(046号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年05月27日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年05月27日
Bar RyN	2004年05月27日
買い物百般	2004年05月27日
エクスカーション	2004年05月27日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身辺雑記 *

「ボータ・リアル」の巻 2004年5月27日 更新

Boda Real 英語のロイヤル・ウェディングですが、これは既に日本語化してますね。王家の結婚式。今回はスペイン皇太子の結婚です。ツイ先週はデンマークの皇太子の結婚式があったばかりで、オメダタ続きです。このニュースは日本でも報道された事と思いますが、イラクだ、パレスティナだ、テロだ、戦争だといったニュースよりはよほどマシです。 22日土曜日、テレビは朝から王宮の隣にある式場、大聖堂を中心にボータ・リアル一本槍。Nは朝食もそこそこテレビにかじりついていました。映画などで見る普通の人の結婚式とは大違い、大聖堂で行われる王室の結婚式とあって私達が見たこともない豪華かつ荘重なもので、ちょっとした驚き。

大使夫人でしょうか招待客の中に留袖姿もチラット見えました。

当日は生憎の雨模様で、花嫁到着の頃は丁度土砂降りの雨で気の毒でした。花嫁本人は介添え人に面倒みてもらうからまだいいようなもの、王宮前の広場を埋めた群集は濡れ鼠になっていました。長い式が終わって、新郎新婦が再び姿を現す頃は雨も小止みになっていましたが、その間も広場の群集は雨の中辛抱強く待っていたんですね。治安当局は厳戒態勢をしいてテロに備えたようですが、幸い、騒ぎはありませんでした。パレードの沿道には警備の警官がお互い手をつなげそうな間隔で並んでいましたが、雨で出足が鈍ったのか、この日のために爆発的に売れた大型テレビのためか、思っていたより人出は少なかったような感じでした。

テレビの報道では、どこかで一部の不満分子が、結婚式反対！ みたいなことを言って氣勢を上げていましたが、まあ、ご愛嬌、といった程度のもので見物人も笑って見ていました。反対って言ったって、もうしちゃったのにナニ寝言を言ってんだカ、みたいなもんでした。新郎新婦それぞれに色々前歴がありそんなこんなで反対する人たちもいたのでしょうか。いいじゃないですか、そんなこと。いまや世界中で王族と普通の人の結婚は当たり前みたいになってきたんだから、いろんな事がアラナ。



翌23日の日曜はスペイン・リーグ最終日でこれまた大騒ぎでした。優勝は先週お話ししたように、もうバレンシアに決まっています、その意味では最終日の盛り上がりはイマイチ。最後までバレンシア、レアル・マドリー(D)、バルサの三つ巴になってくれれば面白かったのに……。二位から四位迄のポイントと、五位以下のそれも最終日を前に既に大きく水が開いてしまっていたので、（お互い同士の最終順位争いは別として）UEFAチャンピオンズ・リーグ出場権のある上位四チームも決定済み。

興味の中心は、UEFAカップ出場権を得られる五・六位争いと、プリメーラ（一部リーグ）からセグンダ（二部リーグ）に落ちる下位三チームがどこになるかという点でした。このうち最下位はムルシアでこれはダントツ？の最下位で決定済み、実質的には下位二位・三位争いでした。この時点で下位二・三・四位はわずかワン・ポイントずつの差です。優勝争いが面白いのは当然。しかし、何処が下に落ちるかという戦いも、やっている選手たちは必死ですが、選手が躍起になればなるほど見ているほうはとても面白い。特に前節（先週）、下から四番目だったエスパニョールは文字通り死に物狂い、もう後がないのですから、ナニがナンでも勝たねばナラヌ、です。

気合の入ったとてもいい試合でした。その甲斐あって、めでたく勝ち残り、来シーズンもプリメーラでプレー出来る事になりました。監督は汗と涙でびちゃびちゃ。

かわいそうなのは、去年は活躍したセルタでとうとう来期はセグンダ落ち決定です。泣いている選手も何人かいました。ナニがいけなかったのか技術的なことは分かりませんが、今年のセルタは正に負け癖がついてしまったようで、シーズン中何時見ても、どの選手の顔も負け犬みたいでした。監督も途中で何度も変ったり、そんなことでは到底意気は上がりませんよネ。又上に上がってきてほしいチームです。



もう一つの興味の中心は、前節(前週)終了時点で七位だったセビージャが六位に食いこんで、UEFAカップの出場権を獲得できるかどうかという事でした。セビージャ

の監督は自身がレッドをもらってしまう面白いキャラクターです。ガンバレ。

そして乱闘もありましたが期待通りのいい試合をして一つ順位を上げ六位。UEFAカップへの出場権を手にしました。選手もサポーターも監督もオーナーも、もう大喜び大勢の観客が試合終了と同時になだれ込んで選手たちと交歓していました。六位になれたことでコレですから優勝したらどんな騒ぎになるのか……。国際試合に出れるということはそのぐらい価値ある事なんでしょうね。選手にとっては自分を高く売れる機会を持つことになるし、チームの営業としても悪かろう筈はないし。

落ち目のリアル・マドリー(D)が最終試合をどんな風に戦うかも注目していました。

最終戦を前にしての順位は三位。四位のデポルティボとは2ポイントの差です。対戦相手は、はるか格下のリアル・ソシエダー(D)。

そして案の定見事に負けてデポルティボと入れ替わって四位に転落。監督はベンチから立ち上がる元気もなく背を丸めて頭を抱え込んでいました。これが有名高給選手をずらりと揃えたチームで勝てなかった監督の姿そのものでしょう。戦後評としては必ず監督の采配がどうのこうのといわれるに違いありません。

技術的なことはフットボール評論家に任せるとして、普通の外野の観客としては、このチームには一つのいい所と沢山の悪いところがあると思っています。

あえてイイ点として挙げるのは、金に糸目をつけず、世界中から有名一流選手をかき集めてドリーム・チームを作り上げ、素晴らしいプレーの連携を見せてくれること。

これは外のチームがどう頑張っても巨額の資金ナシには出来ない事です。



沢山ある悪い点はソックリその裏返し、と言っておきましょう。一つだけ具体例を言えば、敗色濃厚になるとすぐ、もう次期監督の噂話が出始めることです。外野が憶測でバラ撒く噂もあるでしょう、しかし、噂の次期監督が噂どおりに呼ばれるとなると噂はやはり単なる噂ではなく、内部からリークされたものと思えませんか。まだシーズン中で、現監督は現場指揮をしている最中ですヨ。そりゃーツレナカローゼ。魅力ある選手は大勢います、個々のプレーもその連携も素晴らしい。でもチームとしてはどうも好きになれません。やっぱり卵焼きだあー。

*

このHPの創刊は去年の6月1日。初めてオソルおそるアップロードしたのは5月30日でしたから、もう、ほぼ丸一年になります。創刊からアクセスを続けてくださっている方、ご愛読ありがとうございます。そして、そういう読者の方との何らかのつながりで途中からこのHPの存在をお知りになった方、楽しんで頂けたでしょうか。このHPは、表紙でもお断りしているように、あくまで私達から日本の友人・知人の皆さんに宛てた私信のつもりです。その長い手紙も既に46号となりました。

些か長すぎる手紙で、最近、少々マンネリでもあるナーと思っています。

私達は日々それほど刺激的な生活を送っているわけではありません。生活の場所が少しだけ変わったことは確かですが、娘が家にいなくなっからの日本での二人だけの生活と基本的には同じです。そういう平凡な生活の雑記がこのHPですから、どうしても同じことの繰り返しになります。Rの勝手なゴタクも初めは、へえー、そんな考え方もあるのか、と面白がって頂けても度重なると、酔っ払いがグダグダと同じことを繰り返し愚痴るのと大差ありません。



そこで、唐突ではありますがあと4週、即ち第50号でキリ良く「マラガからの手紙」は完結という事にさせて頂きたいと思えます。なお、続刊については考えていますが「カーディスからの手紙」とできるかどうか？ そうできれば嬉しいんですが・・・。

時期もカーディスに引越してきてから、になるかどうか。いまは何とも言えません。カーディスへ行ったからといって、私達の生活に特別な変化があるわけでもありませんが、少なくとも散歩の道々目に入ることは変るでしょう。カーディスからはポルトガル国境がグット近くなります。カナリーやマデイラ行きの船便もあります。新しいエクスカージョンもできると思えます。

再開の目処がつかましたらお知らせ致します。最初の案内を差し上げた方には当方から再度お知らせします。そうでない方は、このHPの存在をお知りになったのと同じ経路をたどってみてください。あなたのお知り合いである(筈の)私達の友人・知人から知ることができると思えます。

それまで、このPCが持ちこたえることを祈って下さい。では今日はコレで。***



* B a r R y N *

「新開発アセイツーナス」の巻 2004年5月27日 更新

アセイツーナス **aceitunas** は、酒の次にバルにはなくてはならないもの。オリーブの実の塩漬けです。オリーブについては実のことも、油のことも、何度もお話しているので、多分ダブる部分も多いと思いますが、ご容赦。しゃべったほうが忘れてるんだから、聞くほうはもっと忘れてるだろうという開き直りです。

スーパーの棚には各種各様のアセイツーナスが少なくとも20種以上、大きいスーパーでは40種近くのもが並んでいます。粒の大きさは大・中・少・極小。完熟の黒いもの、赤っぽいもの、黄色っぽいもの、まだ緑色の残っているもの。柔らかい実はそのまま、堅い実を割って有ります。種のあるもの、抜いたもの。種を抜いたあとに赤いピミエントをつめたもの、アンチョア(あんちょび)をつめたもの。漬け汁も塩味だけのもの、アンチョア味のもの、小玉葱やニンジンと漬け込んだもの、ベイ・リーフを入れたもの、其の他諸々。キリがありません。近所の青空市にはオリーブの実だけを売る専門店が二軒、毎週必ず出ています。

何しろ、栽培種だけで二百種以上あるんだそうですから話になりません。この辺でごく普通に売っているもののうち、気に入っているのはマンサニーヤ種 **manzanilla** のものです。このやや小粒の種入りのものをアンチョアで味付けしたものが一番。ウチではコレにさらに塩漬けのアホ(ニンニク)を加えていることは前にお話した通り。ところが、あるときバス・ツアーで立ち寄った街道筋のドライブ・インの突き出しにでたアセイツーナスがとてもよかったんです。何がいいかというと、その食感。シャキシャキとした歯ざわりはそれまでにないものでした。実の色も緑が鮮やかで、多分若いオリーブの、言わば浅漬けだったんでしょうね。タダの塩漬けらしいさっぱりしたもので、これが原点だよと言われたような気がしました。

私達もここでオリーブを食べ始めた頃は、このマンサニーヤ種のタダの塩漬け専門でした。ヨシ、原点に返ろう。そこで例のアンチョア味は暫くお休み。



コレが普通の種入りマンサニーヤ、ややこしい味は付いてないシンプルなもの、タダの塩味です。かなり茶色っぽく見えますが実際はもう少し緑が掛っています。前にオリーブ油を撮ったときもそうでしたが、どうもオリーブの緑が写真ではうまく出ません。500グラム入り1.3ユーロ。スーパーのオリジナル製品です。

ところが、イマイチぴんと来ないんです。なるほどアンチョア味のものよりは多少歯ざわりは堅いですが、シャキシャキとまではゆきません。あのドライブ・インのは、多分、自家製の漬けてから日の浅いものだったに違いありません。

もう一つ考えられるのは渋抜き過程の違い。生のオリーブはそのまま塩漬けするのではなく、水洗いして、渋抜きをして、更に水洗いをしてから本漬けするのだそうです。全国に出荷するような工場では渋抜きはアルカリ処理をするのだそうです。どうやるのか詳しいことは知りませんが、当然、何か薬品を使うはずですよ。

一方、農家など自家用に作っている所では、昔ながらの灰を使って渋抜きをするそうです。緑色の残り具合や歯ざわりの違いは、この辺に原因があるのではないかと思います。勿論作ってから口に入るまでの時間経過も大いに関係あるでしょう。

青空市場のオリーブ専門店で売っているものも、緑が鮮やかで歯ざわりもシャキっとしています。そのかわり値段は二倍以上です。



やっぱり、アンチョア味に戻るか。デモ歯ざわりはこっちの方が少しはましです。

じゃあ、塩漬けマンサニーヤにウチで味付けしてみよう、という事になりました。

まずはアンチョアを入れてみました。初めは入れすぎてチョッとしょっぱくなりすぎでした。過ぎたるは及ばざるが如し。500グラムの瓶に一匹で充分です。コレでいちおう味と歯ざわりの良さのバランスが出来ました。しかしアンチョアから出る油が綺麗ではありません。初めは浮いた油をすくっては捨てていましたが、何かいいものないかなーと思案の末思いついたのがコレ。Ventresca de Atún ベントレスカ・デ・アツンとはマグロの腹身、そのあとのサラダ **salada** は塩漬けのという意味です。野菜サラダのサラダはエンサラダ **ensalada** です。これを細かく切ってサラダに混ぜるなんて使い方はあるんでしょうね。このままではかなりしょっぱいです。

コレは使えそうだ、やってみようじゃないノ。結果は上々、アンチョアよりクセがなく、オイル漬けですから油は浮きますがイワシよりは綺麗で気になりません。

ところがもう一つ問題発生。塩漬けのアホが突然売り場の棚から姿を消してしまいました。上の写真のオリーブ油に漬けたものはあるのですが、これまで重宝していた塩漬けのクセのないものがなくなってしまいました。元々このアホの塩漬けは何処にもあるというものではなく、或るチェーン店オリジナルの商品で、そこしか売ってなかったのです。まあ、コレはオイル漬けで代用すればヨシ、生から自分で塩漬けにしてもヨシですが、気になるのは何故棚から姿を消してしまったのか？ 有害添加物でも使っていてEU規準に引っかかったか？ 悪いものを食わされていたのかナ？ ***

* 買物百般 *

「ヨグール」の巻 2004年5月27日 更新

ヨーグルトのことです。yogur と綴ります。ヨグールともジョグールとも聞えます。どうも、このYの発音、それからLLの発音には馴染めません。先日来言っているセビージャ **Sevilla** とか、マンサニーヤ **manzanilla** とか、「私」を意味する yo とか、みんな、ヨまたはジョ、ヤまたはジャと聞えます。「HAYA」も「アヤ」とか「アジャ」と発音されてしまうことが多く、ちゃんと「ハヤ」と発音してくれる人は、日本を又は日本人を多少とも知っている人なのだろうと思います。又はバイリンガル、マルチリンガルの人なのでしょう。「怪し」の外人ではどうもネー。

まあ、Yの方は「ヤ」や「ジャ」でも、又は「ヨ」や「ジョ」でもそんなに違和感はありませんが、LLの方はちょっと気をつけなくてははいけません。例えば、又、セビージャですが、これはどう聞いてもセビージャ又はセビーヤで、セビーリヤでもセビー(リ)ヤでもないようです。セビー(リ)ヤという人がいてもいいように思いますがそれが聞き取れないのはコッチの耳の問題なのかもしれません。しかし、断じてセ・ビ・リ・ア又はセ・ビ・リ・ヤでないことは確かで、コレはあくまで日本語です。アメリカ人が横須賀をヨーカスーカと言うようなものでしょう。

「買物」の項を振り返ってみると、食べるものを買う話が断然多くて、ざっと7～8割は、食品に関してドウしたコウしたと言う事のようにです。これは仕方ありません。私達は食品以外の品物を買うことが極めて稀なのです。食品は三度三度必要なものですからナシではすみませんが、日用品なんかは最小限、耐久消費財の購入はほとんどないのが実情です。なくても済むものは我慢しちゃえ、が徹底してきました。又は現にアルもので充足してしまおう、ということか。

そんな私達ですが、今一番ほしいと思っているモノは大型テレビとDVDです。大型と言ったって、せいぜい30インチ迄で普通の家庭ではごく普通のサイズです。なにしろ今のテレビは家具つき部屋の什器の一つ、古色蒼然の14インチです。



30インチぐらいの画面でフットボールを見たい、日本語字幕の入った映画が見たい。それが唯一のささやかな欲望です。それもこれも、とにかく引越しが先。何が何でもまずカーデイスに行ってからと思っています。なぜなら、カーデイスへ行っても家具付きの部屋を借りるわけで、その部屋に大型テレビがないとは限りません。現にこの間見せてもらった空家物件には両方ともかなりでかいテレビがおいてありました。DVDだって付いてる可能性がありますが、これはあっても多分使えないでしょう。欧州のテレビはPAL方式、日本はNTSCで、日本のテレビから録画したものをそのまま再生してココのテレビ受像機で見るとは出来ないのです。信号変換機能のついたDVDプレーヤーでないと使い物になりませんが、普通のスペイン人には無用の物ですから、そんなものがついているとは思えないのです。

さて、肝心のヨーグルを忘れそうになりました。これは近所のスーパー・チェーン店のオリジナル製品で125グラム入り8カップのパックが、ナント87銭。120円足らずです。一個わずか15円。食品は全般に安目ではありますが、コレはここでも特別目立つ、チョッとギョッとするような安さです。初めはすこし腰が引ける感じでしたが、食べてみるとこれが言う事ナシ。品名どおりナチュラルそのもの、甘味をつけたり、香りをつけたり余計なことは一切してありません。以来、野菜ジュースと共に朝食には欠かせないものになりました。味噌汁代わり。発酵食品である点は同じ。でも、折角ナチュラルがウリのものを買っても、ジャムや蜂蜜なんかを入れちゃうんでぶち壊しです。まあ、みんなナチュラルなんだからイイカ。***

エクスカーション

「カーディスへの道」の巻 2004年5月27日 更新

まだ、引越しの目処もついていないのに、カーディスへの道案内とはなんとも気が早いですが、いずれ遊びに来て下さるかも知れない方のために、ベナルマデナとの位置

関係をお話しておきます。下の地図を見ながらお聞き下さい。

中段の右端、オレンジ色の市街地がマラガ。其の左下至近の海岸線に長い綴りの地名が二つ見えますね、上はトレモリーノス下側が今の住所ベナルマデナ **Benalmádena** です。そして、マラガとの中間の黒い飛行機のマークがマラガ空港で、ココからは電車でわずか15分。この便利さがこの土地の利点でもあり、同時にそれがリトル・ロ

ンドン、ベルリン租界になってしまっている原因でもあります。

上段左方のオレンジ色はセビージャ **Sevilla**=セビリア。そして、中段左端がカーディス **Cádiz** です。ベナルマデナから、というよりマラガからカーディスに行くにはと言い換えましょう。なぜなら日本からカーディスに来る場合、セビージャまで飛行機で来るのが最短距離ですが、セビージャ空港への到着便はマラガ空港への到着便に比べると極端に少なく、マラガ経由が断然便利だからです。マラガ空港へは欧州各都市、特にイギリスからの到着便はとて多く、格安便をウリにする各航空会社も多くの便を投入しています。EU諸国からコスタ・デル・ソルを目指す客はそれ程多く、マラガ発着便は航空会社にとってドル箱的です。アンダルシア最大の都市であるセビ

ージャよりマラガの方がEU諸国とは密接につながっているのです。

そのマラガからカーディスへの行き方は二つあります。一つは私達も既に行ったことがあるバス便、もう一つは鉄道です。どちらも五時間弱ですが、バスは事故渋滞等の不確定要素で常に遅れがち、鉄道は直行便はないので乗り換えのロス・タイムがあります。日本からロンドンまで約12時間、ロンドンからマラガまで3時間弱、それに加えてカーディスまで更に5時間。ロンドンとマラガでのロス・タイムだけでざっと

半日余計に掛かることになるかも知れません。チョッときつい旅になりますネ。



今回はバス・ルートの紹介です。マラガ始発のカーデイス行バスは南岸沿いに進みジブラルタル海峡を望むアルヘシラス、イベリア半島最南端のタリファを經由して大西洋岸に出ると海岸線より少し内陸を北西に進みます。今回私達は、地図上ベナルマデナから1センチ位南西にあるフエンヒローラ **Fuengirola** でバスに乗り込みました。マラガからのカーデイス直行便は一日6便しかありませんが、マラガからアルヘシラス行は9便、アルヘシラスからカーデイス行は10便有りますから、乗り継ぎが旨く出来れば少し選択の範囲が広がります。但しそこがバスの泣き所で、予定通りの時間に着けるかどうかは天のみぞ知る、という事になってしまいます。とにかく、沿線の交通事故件数は実に多いですからね。一旦事故渋滞に巻き込まれたら、いつ着けるのか誰にも分かりません。それにアルヘシラスまでと、そこから先の路線は違うバス会社なので、片方が遅れたからといって待つてはくれません。初めから乗り継ぎの都合などは考慮されていないのです。



私達が切符を買って、乗り場へ出てみると、反対方向のマラガ行のバスが近くに止まっていた。右前輪がパンクしています。これはこれからタイヤ交換をしようという所。車庫じゃなくて乗り場ですよ、車庫から出す前に始業点検などしないんでしょうか？ 全く危ない話です。自動車道では結構なスピードでブツ飛ばすんです。しかも後ろを振り向いて顔見知りの乗客とオオッパナシしながらですからネ。走行中に前輪がバーストしたら先ず無事ではすみませんね。この会社、バスの右前にオレンジ色で書いてあるポルティーヨ **Portillo** という名前ですが、コレまでにもこの会社の悪口は散々言ってきました。運行間隔はデタラメ、主要路線以外は路線図ナシ。バス停の名前すらなく「BUS」とだけ。行先表示は前面だけ、路線番号もナシ。お話しにならないお粗末さです。知らないうちはスペインのバスはみんなこんなものかと思っていました。ところが大違い。同じマラガ県でも他のバス会社はもっとちゃんとしているし、他県、例えばカーディスなど、各停留所に詳細な路線図というか、ちゃんとした地図に路線を書き込んだものを張ってあって、自分の行きたい所へは何番のバスに乗ればいいのか、又はどこで乗り換えればいいのか迄表示してあります。更にこの路線のどの時間帯は何分間隔の運行かまで表示してあって、言う事ナシ。路線番号・行き先はバスの前後に表示してるし、もう完璧です。そういうこともカーディスという所の好印象につながっているんです。 まあ、とにかくこのバスが私達の乗る便でなくてよかったです。私達の乗るのがこうならないという保証はどこにもありません。



さて、私達のバスは「極めて正確に」定刻よりタッタ15分の遅れで出発。途中ジブラルタルまでのコスタ・デル・ソルは嫌いなサマー・リゾート風景に終始します。ところがアルヘシラスを過ぎて、スペイン南端タリファに近づくと辺りの様子がガラッと変わります。先ず上の写真、コレはタリファ岬の手前の峠道からジブラルタル海峡の向こうに見たアフリカ大陸です。高速で走るバスの窓越し、しかも逆光なので鮮明な写真が取れませんでした。肉眼で見ると眼下の海峡を通過する船もアフリ

カも手にとるようです。しかし、この瞬間は珍しくも船が見えません。

ココから先はもうコスタ・デル・ソル(太陽の海岸)ではなくてコスタ・デ・ラ・ルス **Costa de la Luz** (光の海岸)。地中海ではなく大西洋です。タリファの西の海は大西洋のウネリがマトモにぶつかるのでサーファーたちのメッカになっています。大きなウネリと海峡の強い風を掴んでボード・セーリングやパラ・サーフィンが盛んです。

バスの窓からも色とりどりのパラ・セールが沢山見えました。

タリファの港はマグロ漁で有名なところだそうで、この小さい町は一度は泊ってみたい所。この辺りは北アフリカからの密航者の上陸が絶えない場所でもあります。



タリファを過ぎると、残念ながら道路は少し内陸に入り海岸線と平行して走ります。海は見えなくなりますが、その代わりこんな風な、のどかな田園風景になります。



のんびりと牛や馬が草を食み、牧草地は一面のお花畑です。去年きたときは六月末でしたが、延々とヒマワリ畑が続いた印象がありました。今回はまだ蕾がつくかどうかぐらいで、あの黄色一色の地面とは全く違うところを走っているような気分です。

こういう風景はやはり潮風の当る所では見られないものでしょう。

タリファからカーデイスまでは、多少の起伏はあるもののバス道路はほとんど平坦な所を走ります。こういう所をのんびりとサイクリングしたらさぞ気分がよかろうと思いました。マラガ県の印象は緑の少ない山が海岸に迫るという感じが強いですが、カーデイス県はもっと緑が多くて平坦地が多いのです。この辺は闘牛用の牛を育てる牧場が多く、こうしてノンビリしている牛も、明日はどういう運命が待っているやら？



これはタリファとカーデイスの丁度中間、小高い丘、というか小山の頂上にある村で
ベヘール・デ・ラ・フロンテーラ **Vejer de la Frontera** というところです。

アンダルシアの白い村というキャッチ・フレーズがピッタリのところですが、カーデイス行きのバスは山の麓を素通り。この交通の不便さと、近くには観光の呼び物がないことが幸いしたのか、同じような性格で便利な場所にあるミハスやフリヒリアーナ等と違って余り観光荒れしていないらしいです。ここも一度は泊ってみたい所。

ここやタリファはカーデイスからは楽に来れる所なので、楽しみは先に延ばしておく
ことにして今回は全て素通り。

カーデイス県にはこのベヘールの他にヘレス・デ・ラ・フロンテーラとか、アルコス
デ・ラ・フロンテーラとか、末尾がデ・ラ・フロンテーラ **de la Frontera** (国境の)
で終わる地名が沢山あります。これはイベリア半島の多くの部分がイスラムの支配下
にあった11～2世紀、キリスト教徒の土地との境界を平和的に定めていた頃の名残
なのだそうです。その後キリスト教徒が段々力をつけ13～5世紀になると血なまぐ
さい戦いの連続になりますが、平和共存の時代もあったらしいんですね。



ここでもう一度カーデイス市の地図をみてください。カーデイスは昔「銀の匙」と呼ばれていたらしい。博物館で見た古い地図によると、昔は先端の旧市街部分だけが島のようになっていて新市街は細い砂州のようなものだったらしいです。それならばスプーンの形になりますが、今では埋め立が進んで大分形も変わってきて、銀の匙よりカマキリがひっくり返った、といった方が近いような形です。其の頭の部分がカスコ・アンティグオ **casco antiguo**=旧市街です。

本当はこの部分に住みたいと思っていたんですが、物件のデモノが極端に少ないことと建物が老朽化していてエレベーターなどは望むべくもないこと、などでどうやら諦めざるを得ないことが分かってきました。

デ、次の希望条件は首の部分から下(右手)胴体部分、即ち新市街の外海側(下側)ですが、コレもそう簡単ではありません。なにしろ旧市街は1平方キロ余り、新市街でもせいぜい4平方キロ程度ですから、もう新たな開発の余地はないのです。

先週号の夕日の風景は、首部分と肩のふくらみのあいだの丸いハイライトの浜で撮ったものです。この辺の海沿いの部屋が見つければ言う事ナシなんですけどね。

「海沿いの」はプリメーラ・リネア・デ・プラヤ **primera linea de playa** と言います、浜から第一番目の線、最前線です。此の際、視界さえ開けていれば、プリメーラ=第一でなくてセグンダ **segunda**=第二列でもいいか、とやや弱気になりかけです。これから部屋が見つかるまでは、ちよくちよくカーデイス参りをしなければならんナと思っています。出来れば毎月、少なくとも2ヶ月に一度は顔を出そう。泊りがけは何かとモノイリだから、チョッと強行軍だけどなるべく日帰り、弁当もちで・・・。



旧市街のヘソ。市庁舎前広場、Pl. San Juan de Dios プラサ・サンファン・デ・ディオス。この役所で住民登録をする日が来るかどうか？



右の MUNDOCASA というのは第一番に飛び込んだ市庁舎前の不動産屋。HOSTAL COLON は私達の泊った一つ星ペンション。大聖堂や市庁舎のすぐ裏という便利至極が取柄。私達の部屋は最上階4階(日本の五階)で勿論エレベーターはナシ。塔のような渦巻き階段を登って登って、登りきる頃はアヘアヘ。旧市街はやっぱりだめだァー。***
